

生産者グループで土づくりを工夫した良質な野菜

【熊本県山都町での産地づくりに向けた取組】

・山都町では、町と山都町有機農業協議会が中心となって、野菜の高品質化、多収や味の向上を目指して、栽培技術向上及び栽培体制の確立による産地づくりを進めています。

・具体的には、ほ場の土壌分析、野菜の成分分析や分析結果の検証を経て、品目やほ場ごとの課題を探し、必要な技術改善を、専門家による講習会などを行いながら進めています。



【土づくりが肝心】

・じゃがいも、トマト、ピーマンなど多くの品目に取り組んでおり、分析結果から土壌バランスを知ることで、肥料成分不足など生産者毎に課題がみられたため、肥料やミネラル資材、菌との関わりなどの改善を進めました。

・生産者同士で意見交換しながら良質な土づくりを実践することで「野菜の光合成の最大化」を図っています。

・このような取組により、生産者の栽培技術が向上し、野菜の生育が良くなり収量も増加、病気になりにくい野菜が作られ、化学農薬や化学肥料を使わない有機野菜の生産が進んでいます。



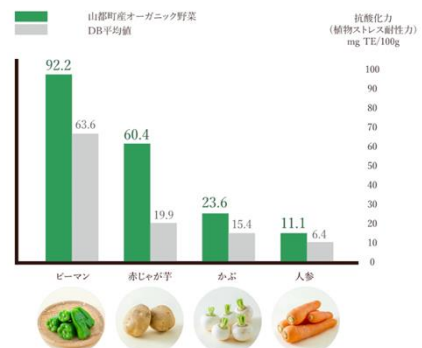
【栄養価も高い】

・分析結果のもうひとつの特徴として、土づくりを工夫したこれらの野菜には、抗酸化力が高いという傾向がみられました。

・「健康な野菜が健康な体を作る」という情報を消費者に正しく伝え、土づくりをしっかり行った野菜の良さをPRしています。

・これらの野菜は、インターネットでのセット販売のほか、スーパーでの販売、また今後は地元の道の駅での販売も計画しています。

・生産者の皆さんは、今後さらに土づくりに磨きをかけながら、良質な有機野菜づくりを引き続き進めています。



※(株)メディカル青果物研究所出典 2021～2022年調べ
 ※DB平均値は、デリカフーズグループ保有のデータベース
 ※平均値算出に用いた数:221検体(ピーマン/2005～2020年/10～11月)
 ※平均値算出に用いた数:8検体(じゃがいも/2015～2021年/通年)
 ※平均値算出に用いた数:8検体(人参/2005～2021年/12～1月)
 ※平均値算出に用いた数:34検体(かぶ/2008～2019年/12～1月)